



人間はどのようにして男と女に分かれるの

人間が男と女に分かれるのは、命が芽生えたときから

赤ちゃんが、お母さんのおなかの中で育ち、生まれてくることはだれでも知っています。

しかし、赤ちゃんは、お父さんとお母さんが、協力しなければ生まれません。

赤ちゃんの命は、お父さんの体の中にある精子というものと、お母さんの体の中にある卵子というものが、いっしょになったときに始まります。そして、そのとき、赤ちゃんが男の子なのか女の子なのかが決まります。

男と女に分かれるのは、染色体のはたらき

わたしたちの体は、小さな小さな細胞からできていて、その数は全部で60兆もあるといわれています。筋肉も骨も内臓も、みんな細胞が集まってできているのです。

精子や卵子も細胞です。そして、その中には染色体というものがあり、お父さんの精子は、男の子をつくるための染色体と、女の子をつくるための染色体の両方を持っています。

ですから、お父さんの精子と、お母さんの卵子がいっしょになるとき、卵子といっしょになるのが、男の子をつくるための染色体ならば男の子が、女の子をつくるための染色体ならば、女の子ができるというわけです。

また、精子や卵子など細胞には、遺伝子というものがあります。遺伝子は、親の体の特徴などを、子どもに伝えるための、設計図のようなはたらきをするものです。そのため、子どもは、親と同じような特徴をもっているのです。(監修・保志 宏)

